

# ゴルフ場は豊かな動植物の生息地

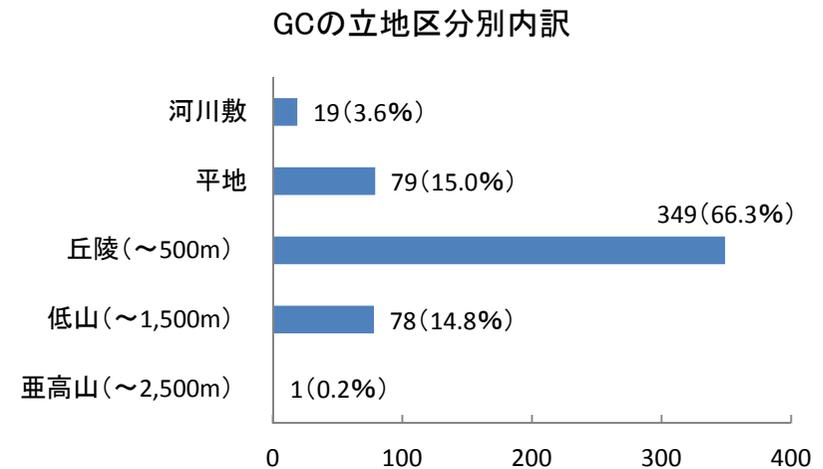
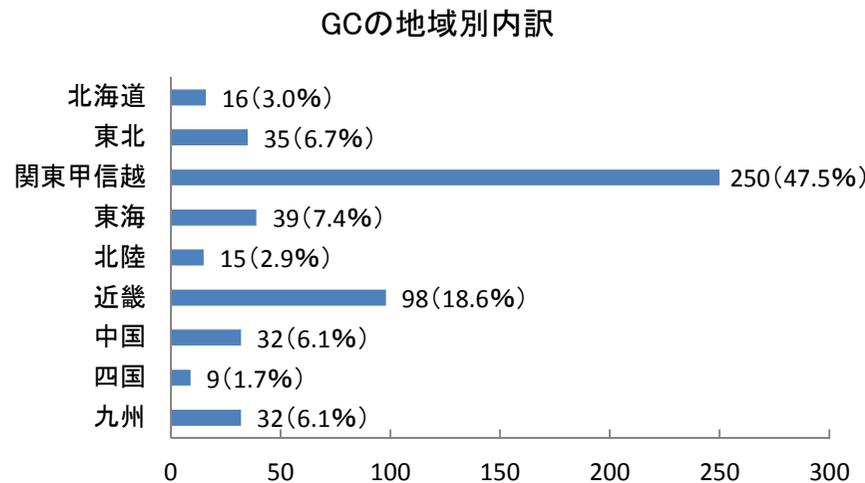
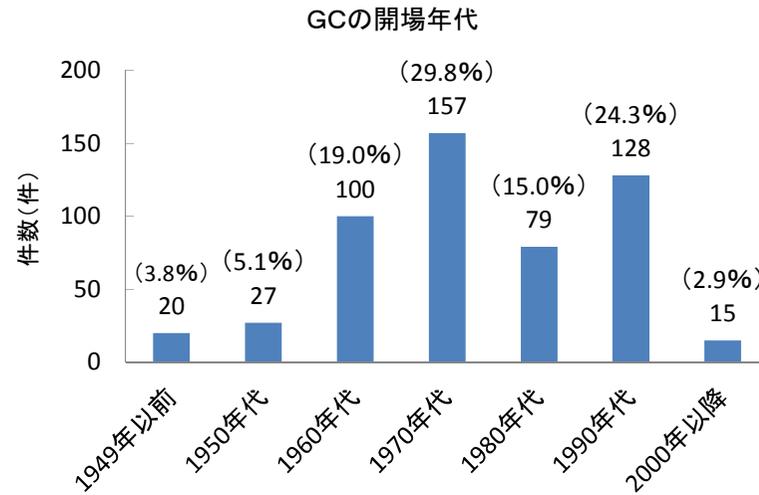
ーゴルフ場の生きものアンケート調査結果ー

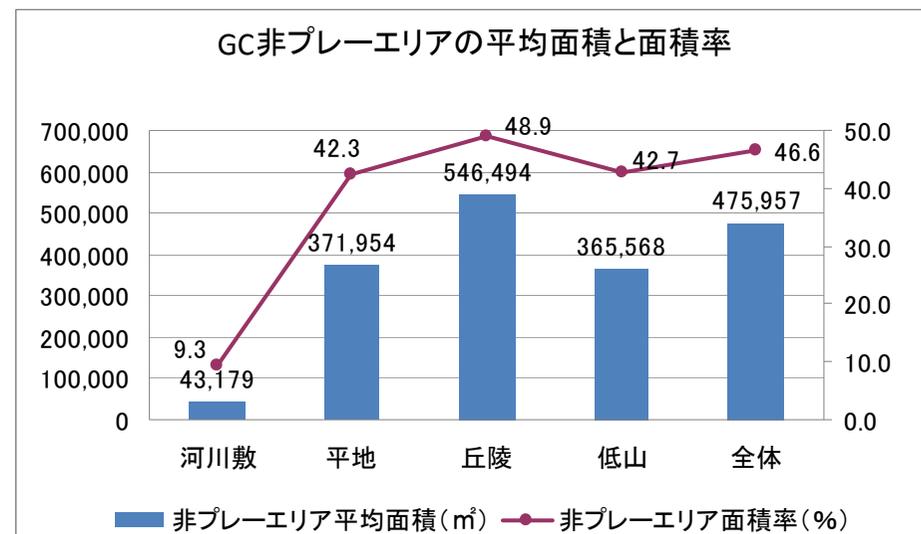
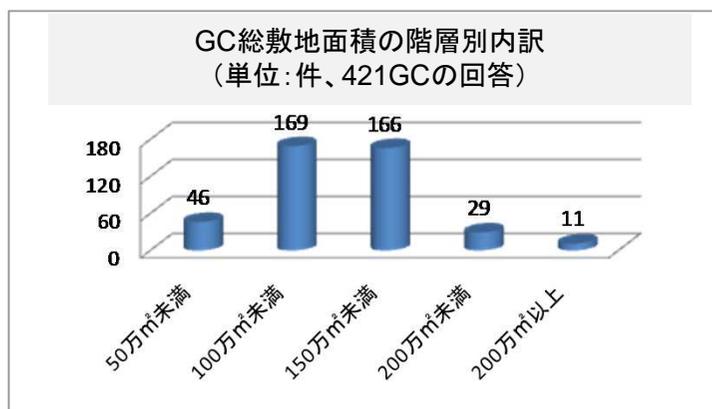
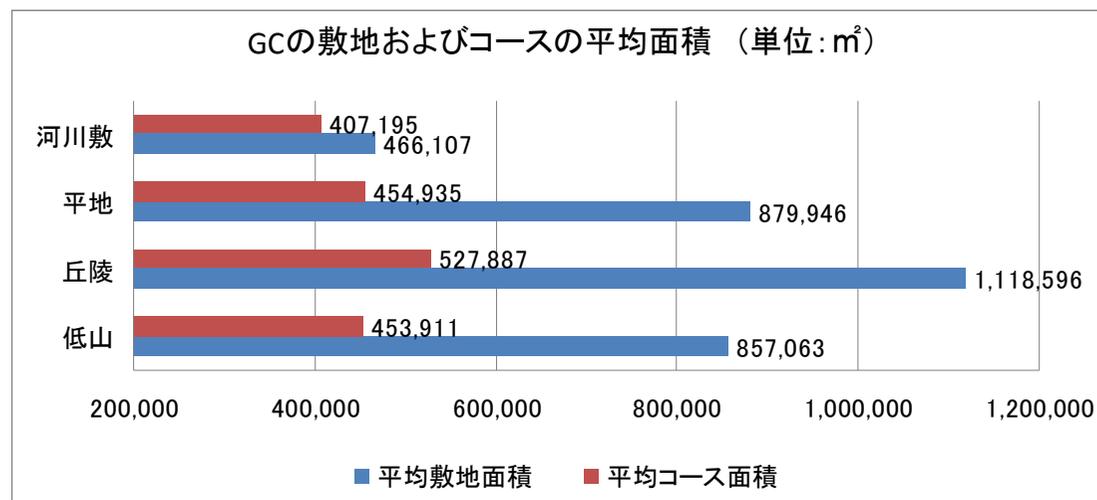
(一財)日本緑化センター

企画広報部長 瀧 邦夫

本調査は、(公社)ゴルフ緑化促進会・日本ゴルフ場支配人会連合会が平成24年9月に実施し、日本緑化センターがとりまとめた。  
全国2,336ゴルフ場のうち、526ゴルフ場（以下、GCとする）から回答（回答率22.5%）を得た。

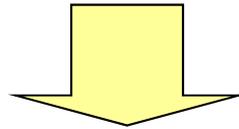
# 1. ゴルフ場の生きものの調査





GC非プレーエリア面積率は46.6%

この比率を現在ゴルフ業界で認識されている全国のGC総敷地面積27万haに乗ずると、非プレーエリア面積はおよそ12万6,000haに達する。



生きものの生息地として活用できる十分な面積がある。

GCには平均延長866.4m(199GCの回答)、平均幅3.1m(201GCの回答)の沢、小川が流れている。

→ 生きものに良好な生息地となる、線で繋がっている沢や小川が存在している。

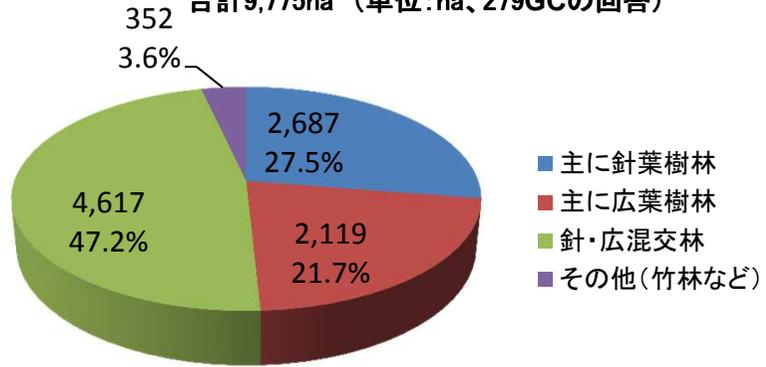


GCのコース管理に使用している主な水源は、井戸(55.3%)、池・溜池(48.9%)となり、水道を使用しているGC(11.1%)もみられる(523GCの複数回答)。

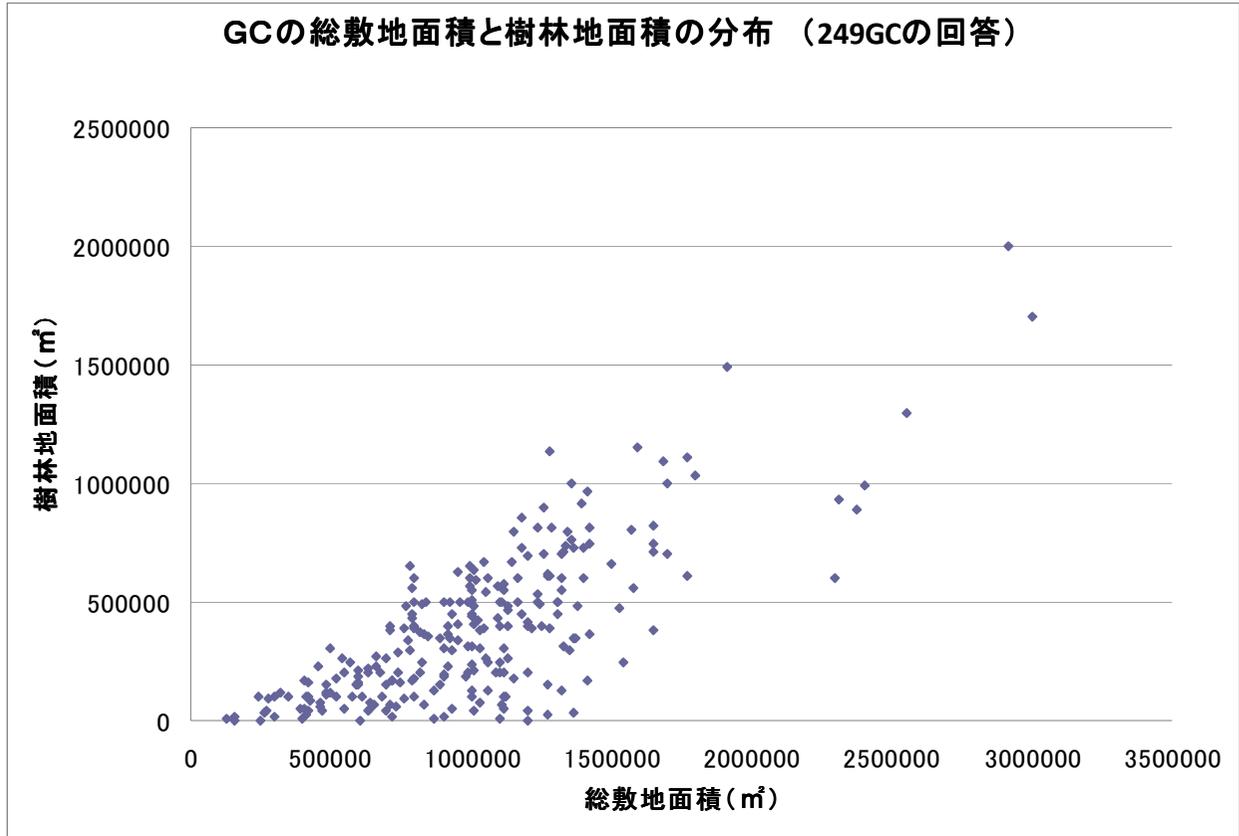


### GCの樹林地面積内訳

合計9,775ha (単位:ha、279GCの回答)



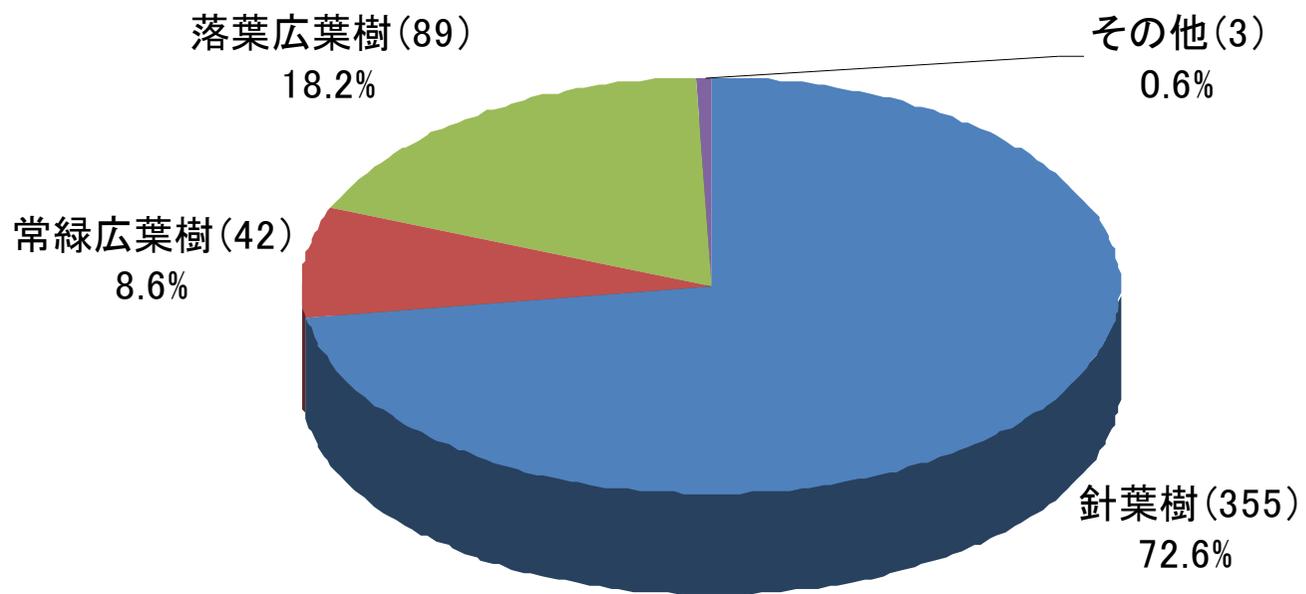
### GCの総敷地面積と樹林地面積の分布 (249GCの回答)



GC総敷地面積に占める樹林地面積の割合は38.3%となる(両データのある249GCの回答)。

➡ 総敷地面積の46.6%は非プレーエリア面積で、その大部分は樹林地面積となる。

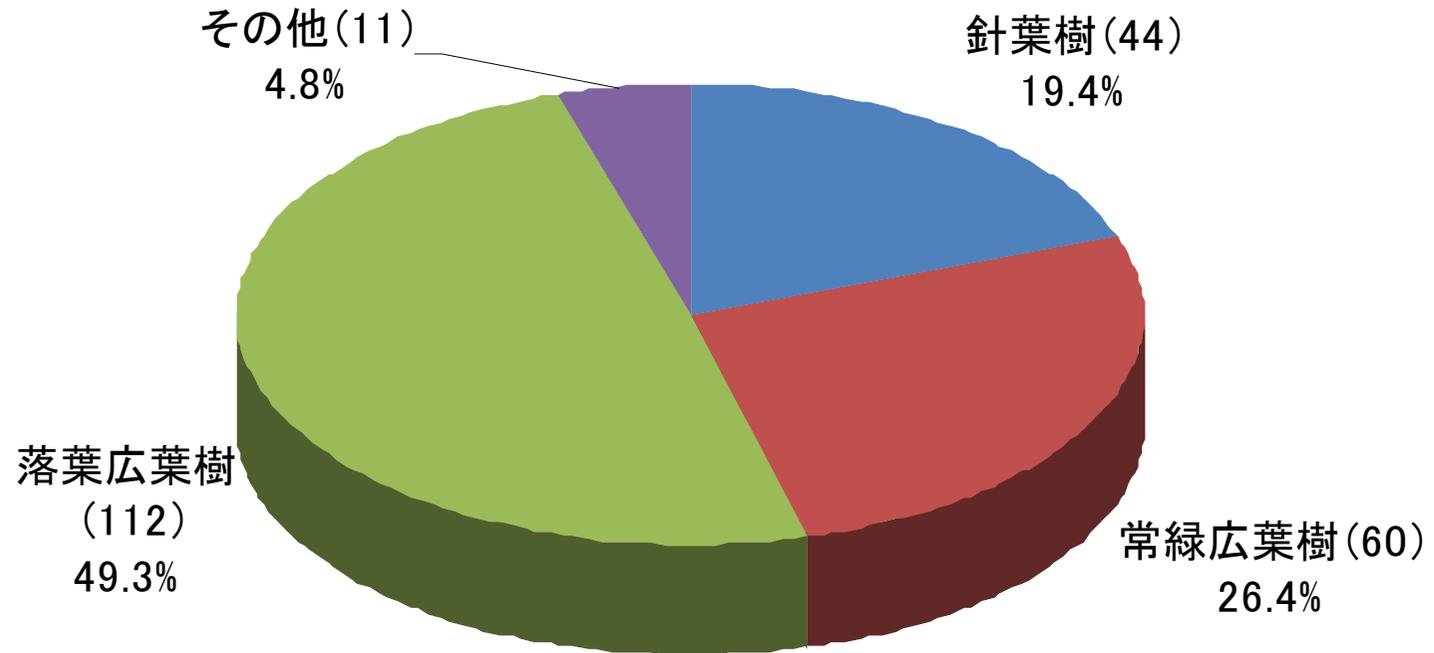
### GCにみられる第1位の樹種 (カッコ内はGC数)



針葉樹	回答数(件)	常緑広葉樹	回答数(件)	落葉広葉樹	回答数(件)
マツ類	125	カシ類	10	ナラ類	29
アカマツ	66	クスノキ	4	コナラ	16
スギ	57	マテバシイ	4	クヌギ	10
クロマツ	33	モクマオウ	4	シラカバ	6
カラマツ	24	シラカシ	3	ヤナギ類	6
ヒノキ	23	スダジイ	2	サクラ類	4
サワラ	5	アベリア	1	ミズナラ	4
カイツカイブキ	3	アラカシ	1	アカシア類	2
テーダマツ	2	ウバメガシ	1	ヤシヤブシ	2
トドマツ	2	キンモクセイ	1	アベマキ	1
ヒマラヤスギ	2	サカキ	1	イヌシテ	1
ベイマツ類	3	サザンカ	1	カエデ類	1
リュウキュウマツ	2	サツキ	1	サルスベリ	1
アカエゾマツ	1	タブノキ	1	シダレヤナギ	1
イヌマキ	1	ツツジ類	1	ソメイヨシノ	1
ゴヨウマツ	1	ヒサカキ	1	ニセアカシア	1
ストローブマツ	1	ヒラドツツジ	1	ハンノキ	1
マキ類	1	ヒワ	1	ブナ	1
メタセコイア	1	マサキ	1	ヤマグワ	1
モミ	1	モチノキ	1	その他	回答数(件)
Cupr. レイランデュー	1	ヤマモモ	1	タケ類	2
				ワシントンア・ロブスタ	1

GCにある樹木のうち本数の一番多い樹種

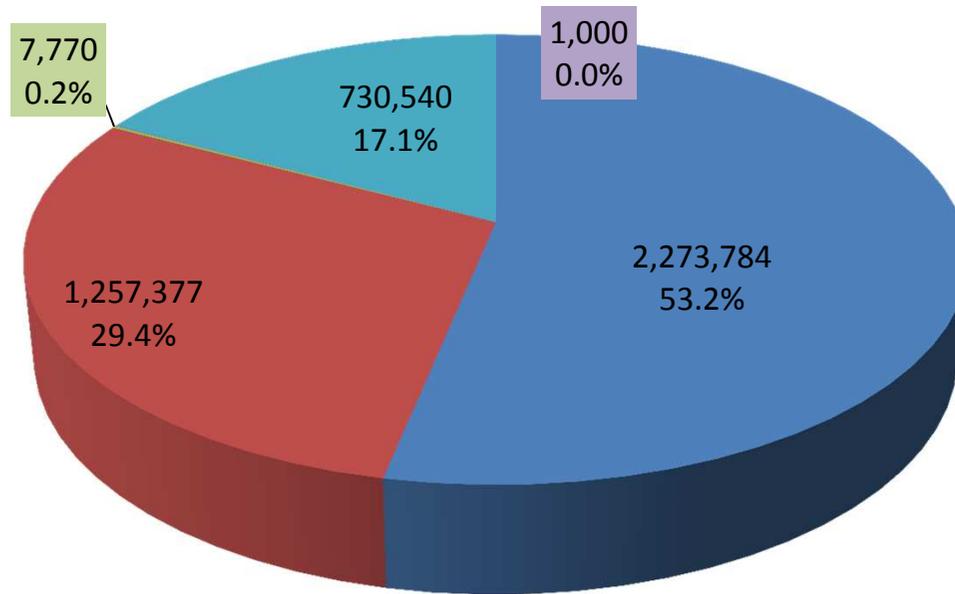
GCにある上位10位までに含まれる樹種  
(カッコ内は樹種数)



針葉樹	回答数(件)	常緑広葉樹	回答数(件)	落葉広葉樹	回答数(件)
スギ	277	カシ類	126	サクラ類	241
マツ類	215	クスノキ	96	ナラ類	162
ヒノキ	205	ヤマモモ	53	クヌギ	133
アカマツ	163	ツツジ類	51	カエデ類	128
メタセコイア	109	マテバシイ	49	ケヤキ	87
クロマツ	99	スタシイ	47	コナラ	68
ヒマラヤスギ	70	サザンカ	42	シラカバ	54
カラマツ	62	シラカシ	41	クリ(ヤマグリ)	34
カイヅカイブキ	52	ツバキ類	27	ヤマザクラ	32
サワラ	43	キンモクセイ	23	サルスベリ	31
モミ	33	サツキ	22	ウメ類	30
ヒバ類	16	モチノキ	17	アカシア類	27
テーダマツ	10	アラカシ	16	ヤナギ類	21
トウヒ	10	キョウチクトウ	13	ニセアカシア	19
トドマツ	9	クロガネモチ	13	ミスナラ	17

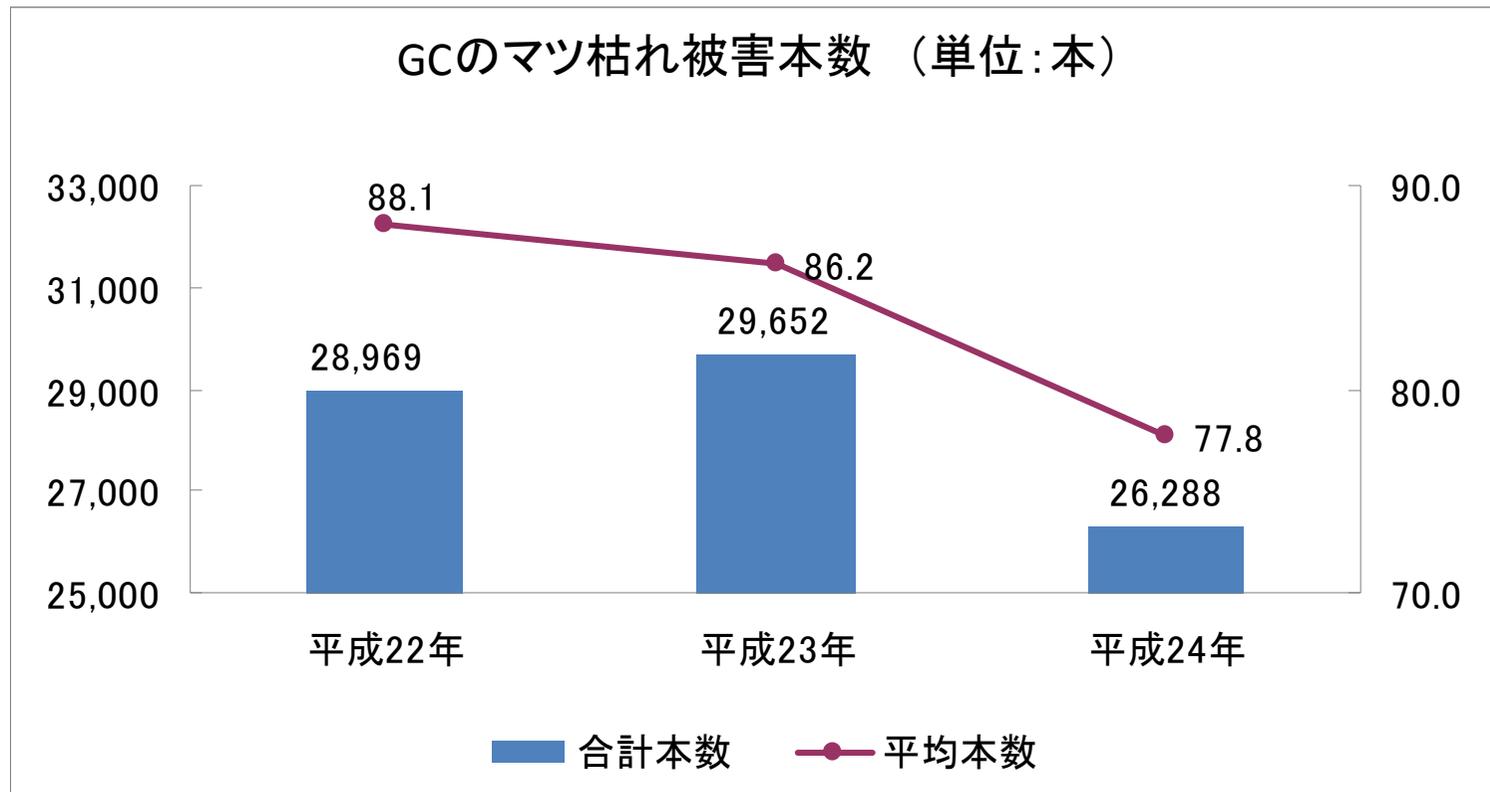
GCにある上位10までに含まれる樹種

GCのマツ類本数  
合計4,270,471本（単位：本、329GCの回答）

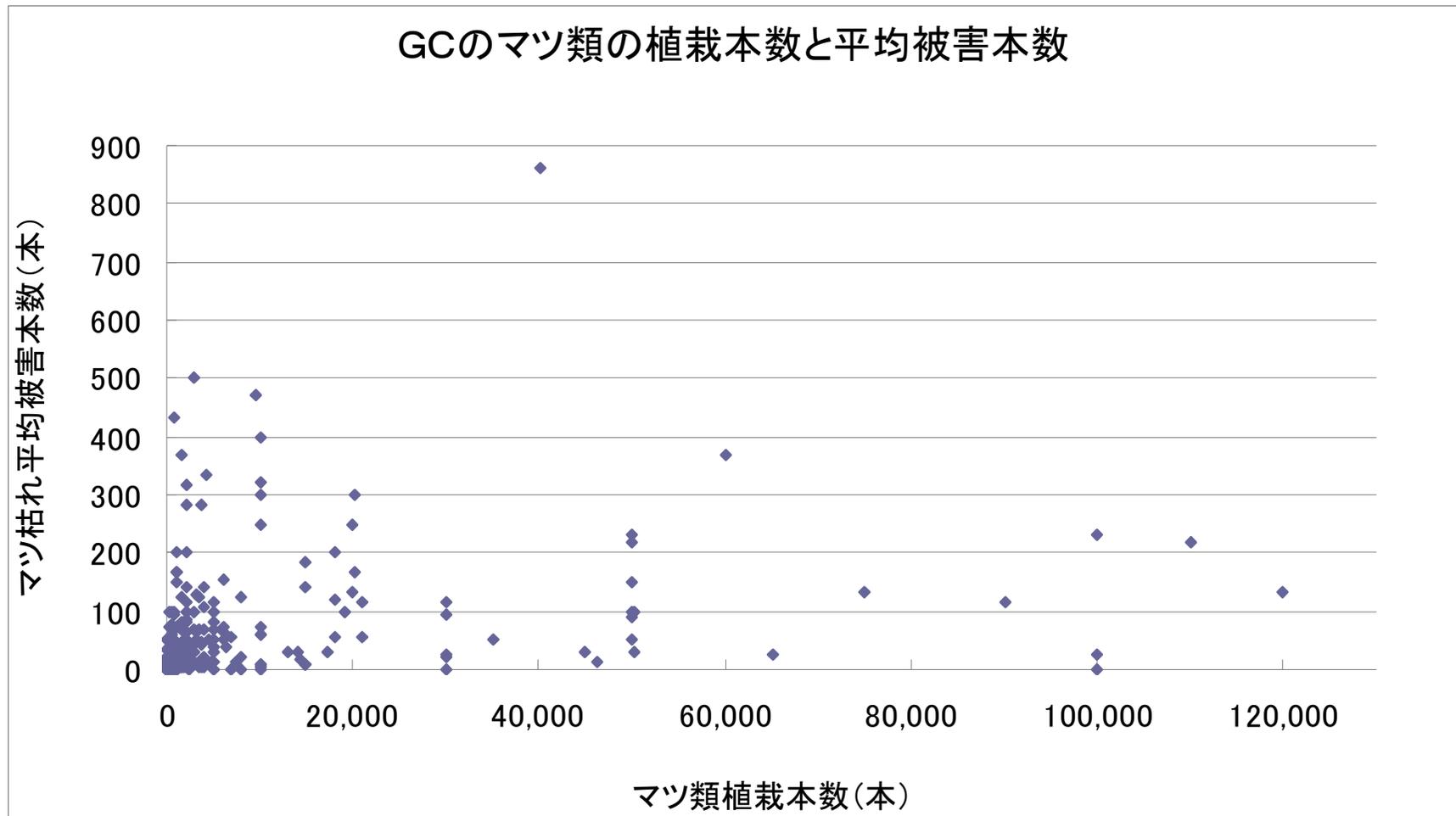


■ アカマツ ■ クロマツ ■ ゴヨウマツ ■ リュウキュウマツ ■ マツ類(樹種不明)

1GC当たりマツ類の平均植栽本数は12,980本、アカマツの平均は6,911本、クロマツは3,822本となる。

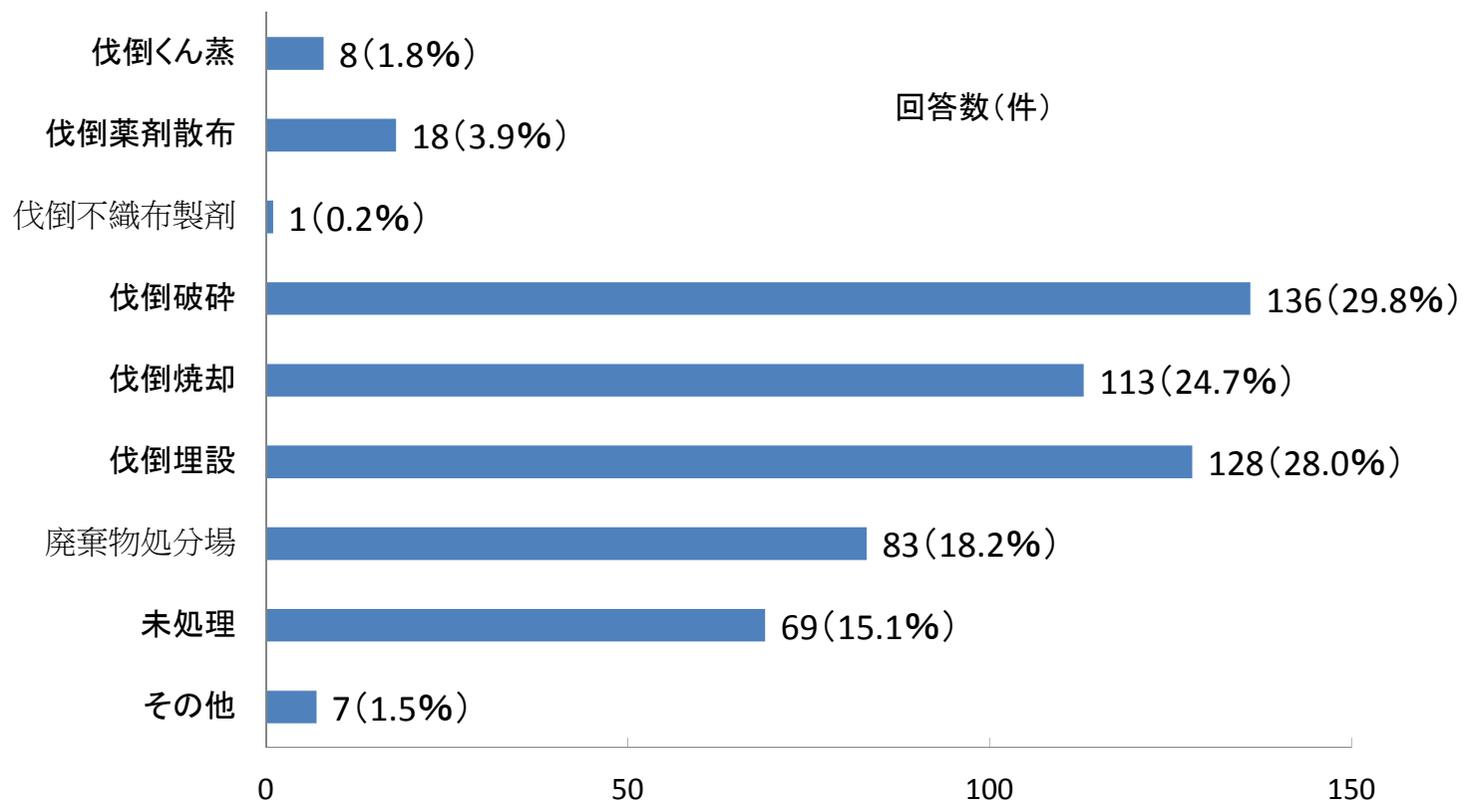


3年間の1GC当たり平均被害本数は84.0本となる。



293GCの中には3年間の平均被害本数が100本以上のGCもある。

GCのマツ枯れ被害木の処理(複数回答)  
(集計GC数: 457)

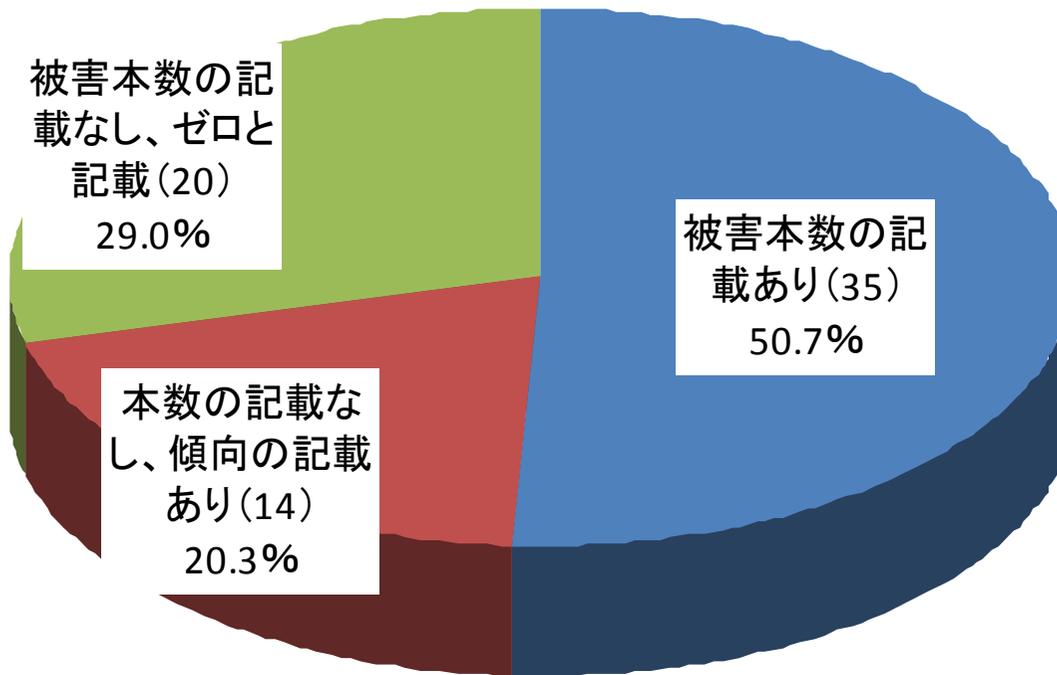




伐倒くん蒸  
伐倒不織布製剤  
伐倒破碎  
(上右から時計回り)

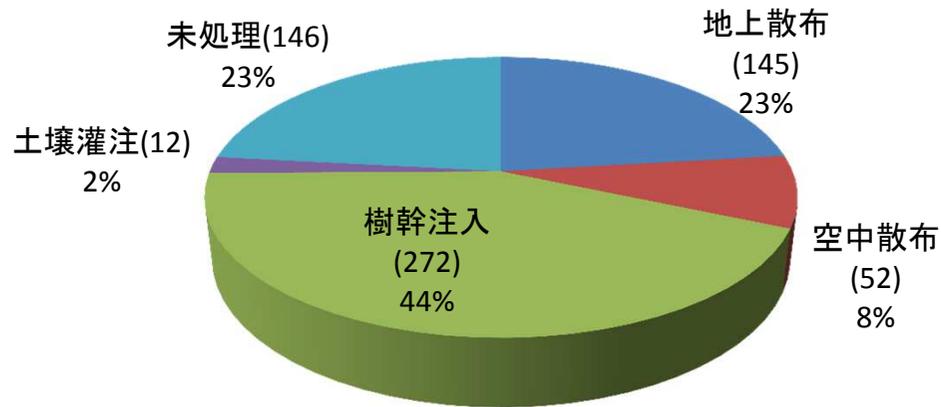


### マツ枯れ被害木「未処理」69件の内訳

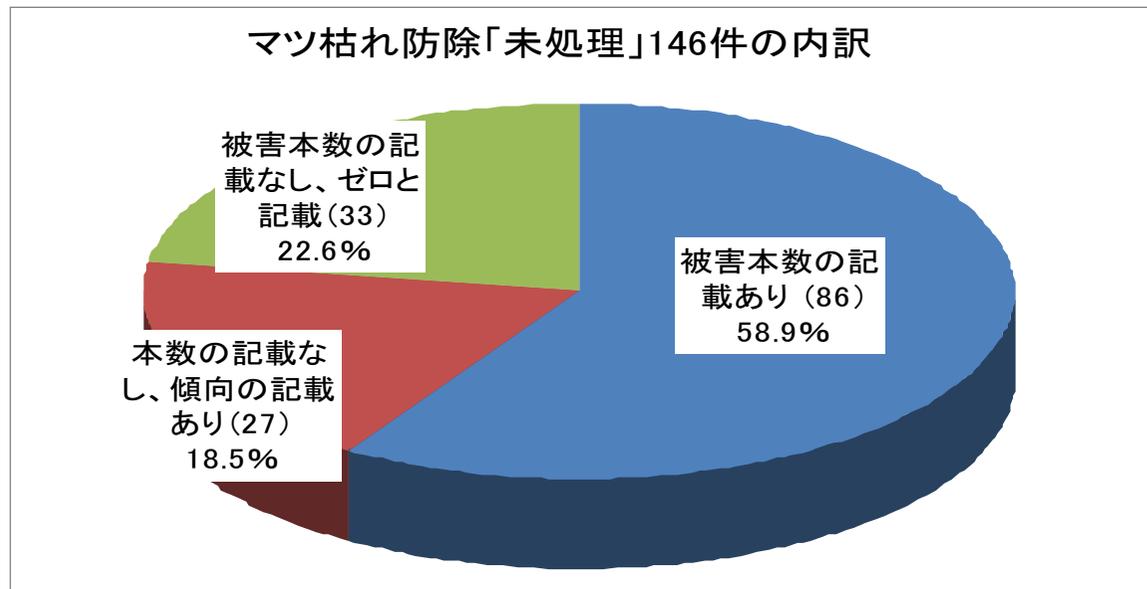


マツ枯れ被害が発生しているにもかかわらず、被害木に何ら対処していないところが49GCある。

### GCのマツ枯れ防除（複数回答）



### マツ枯れ防除「未処理」146件の内訳

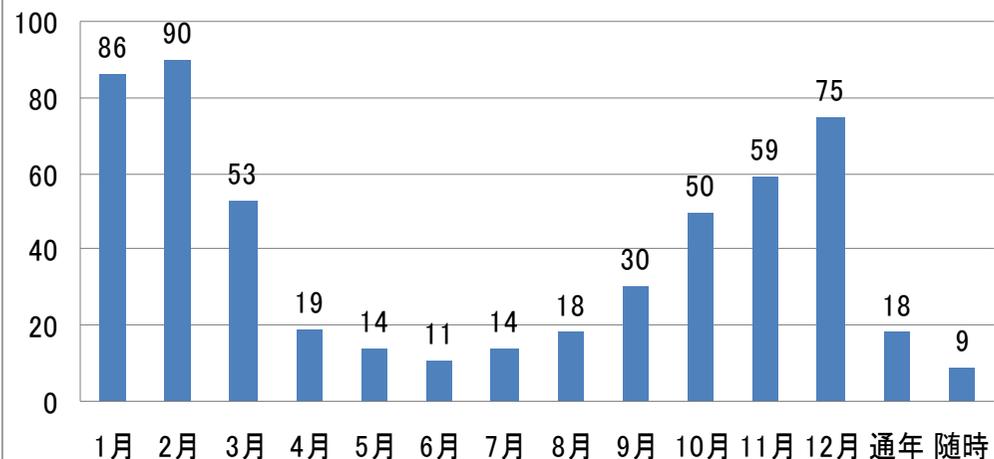


マツ枯れ被害が発生しているにもかかわらず、被害予防のために何ら対処していないところが113GCもある。



地上散布、空中散布、樹幹注入、土壤灌注  
(右上から時計回り)

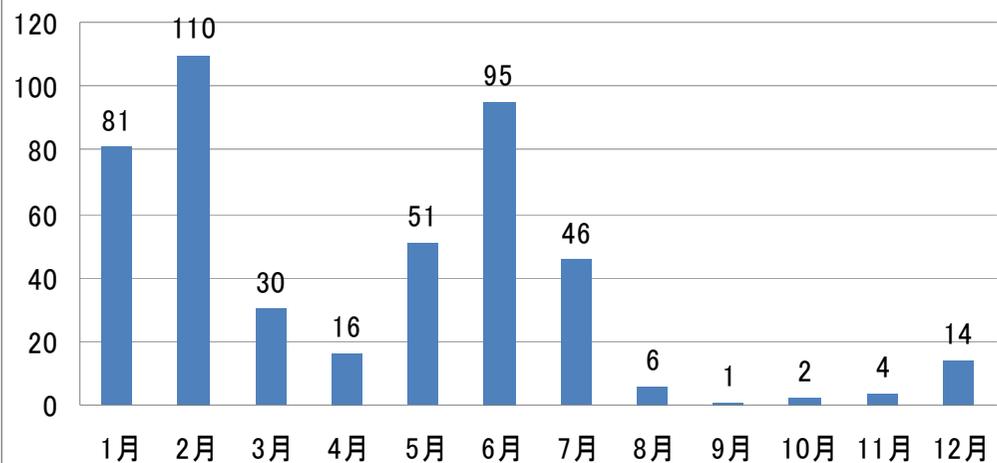
GCのマツ枯れ被害木処理の施工時期  
(集計数277GC、単位:件)



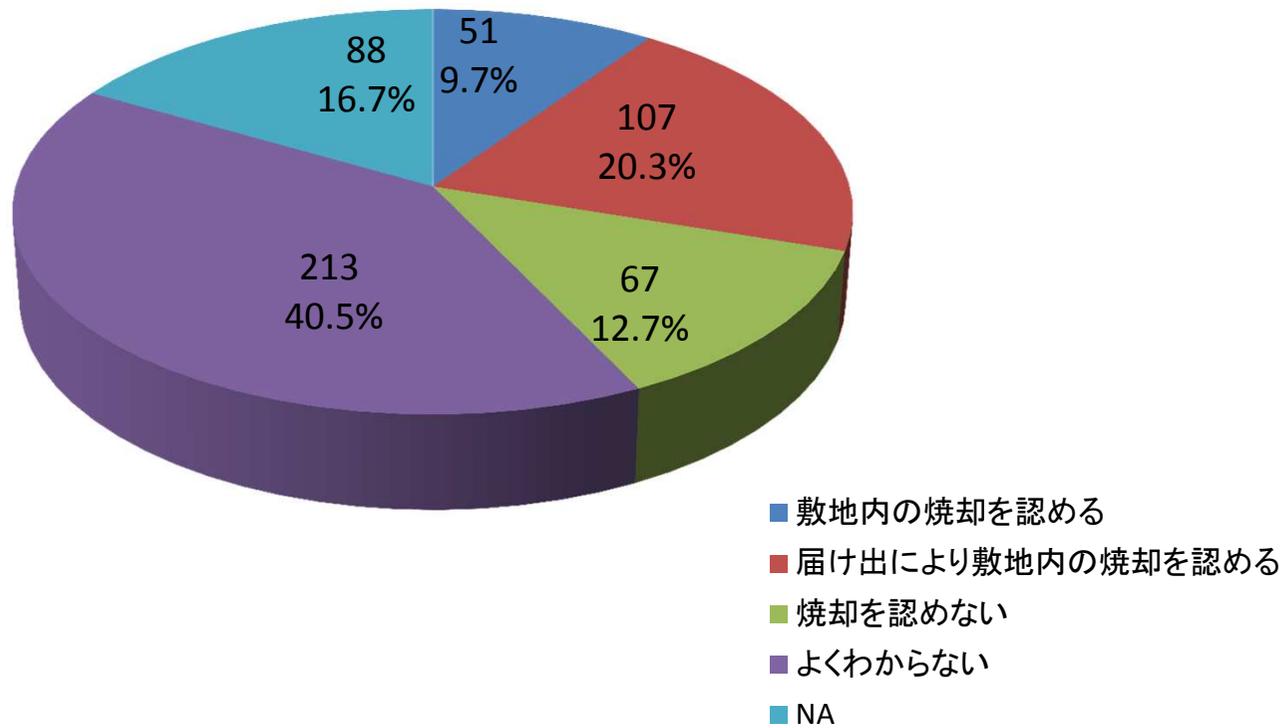
10月頃から増え、2月頃にピーク。伐倒し破碎・焼却・埋設する処理をマツノマダラカミキリ成虫が被害木から羽化脱出する夏を迎える前に実施。

1～2月の件数が多く、樹幹注入をこの時期に実施。5～7月は、地上散布などマツノマダラカミキリ成虫が健全なマツ類に飛来する前までに、予防のために薬剤散布を実施。

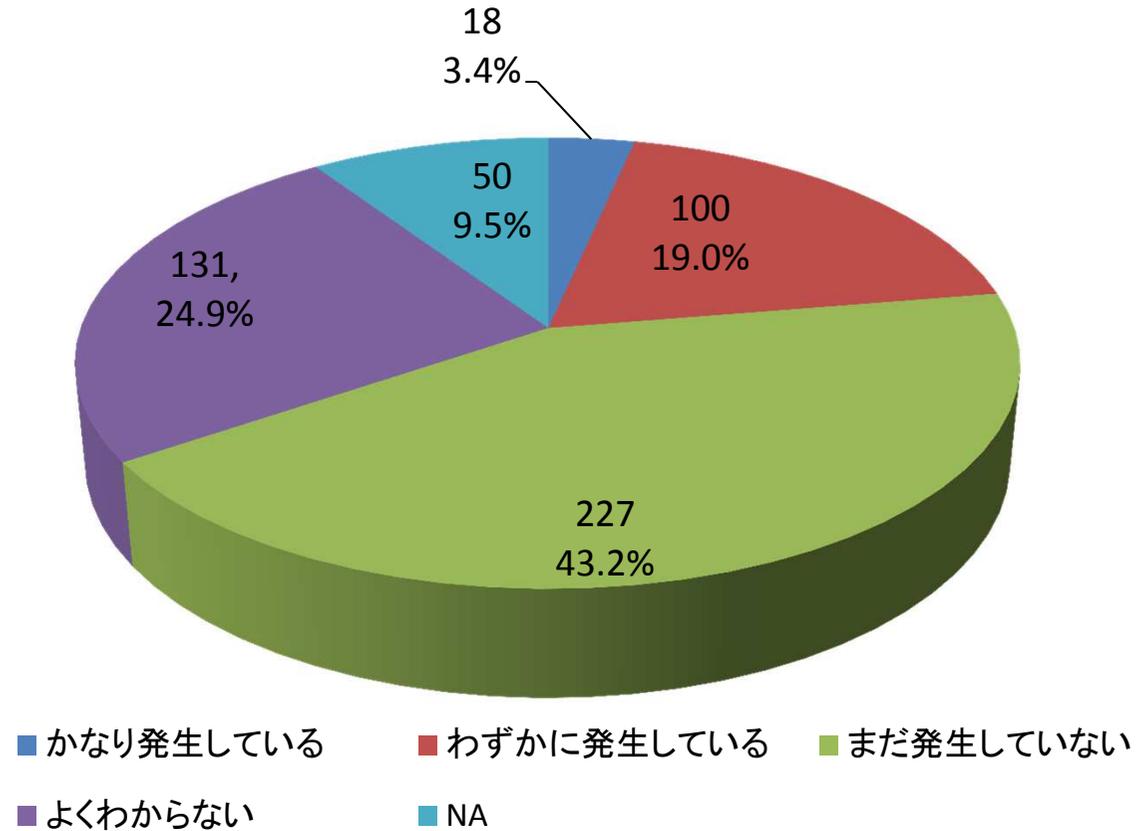
GCの主なマツ枯れ防除の施工時期  
(集計数275GC、単位:件)



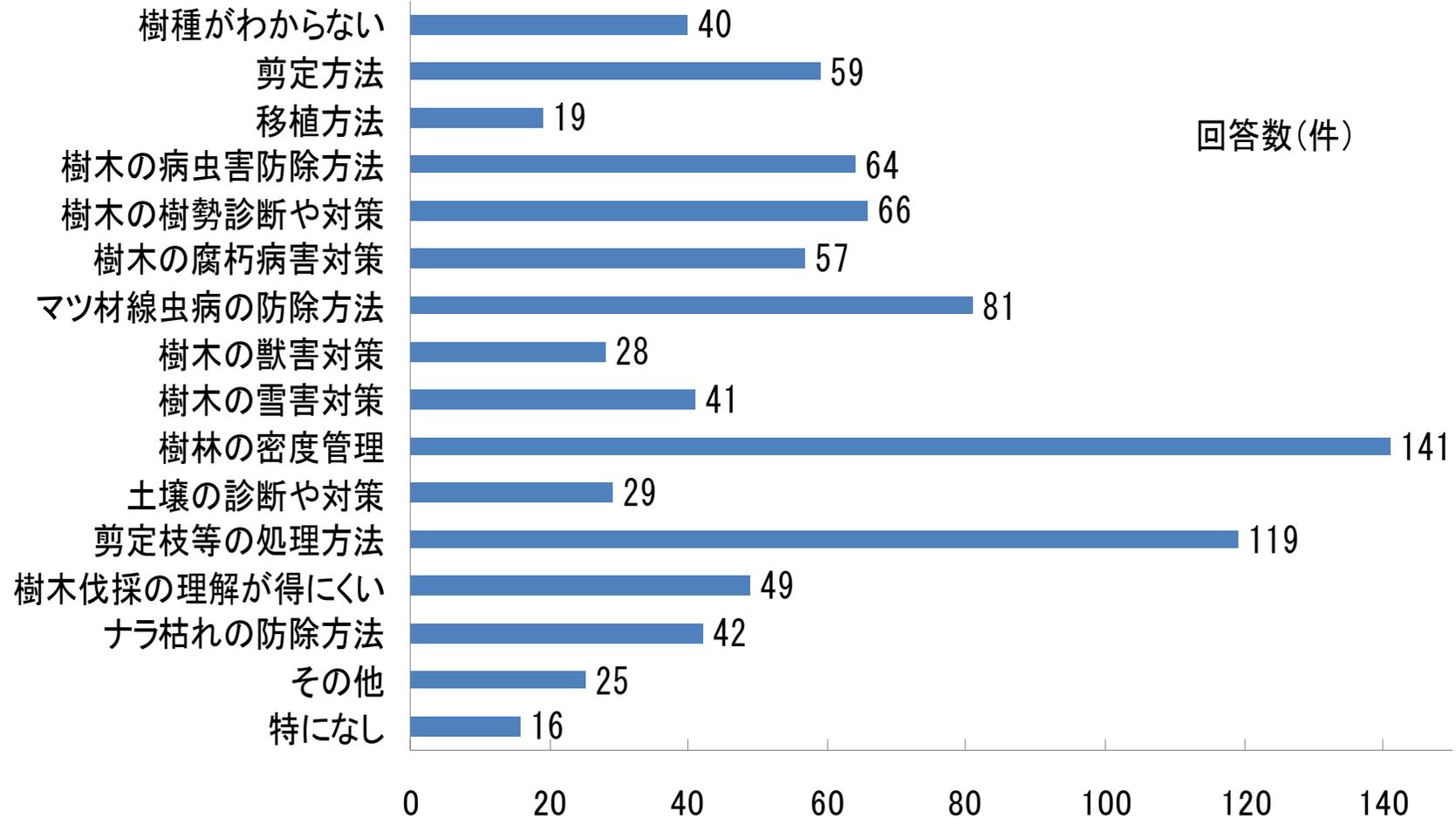
GCのマツ枯れ被害木焼却に対する都道府県の行政指導  
(単位:件、526GCの回答)



GCのナラ枯れ被害（単位：件、526GCの回答）



### GCの樹木管理で悩んでいる事項（複数回答）（集計GC数:409）



# 絶滅危惧種等の 植物

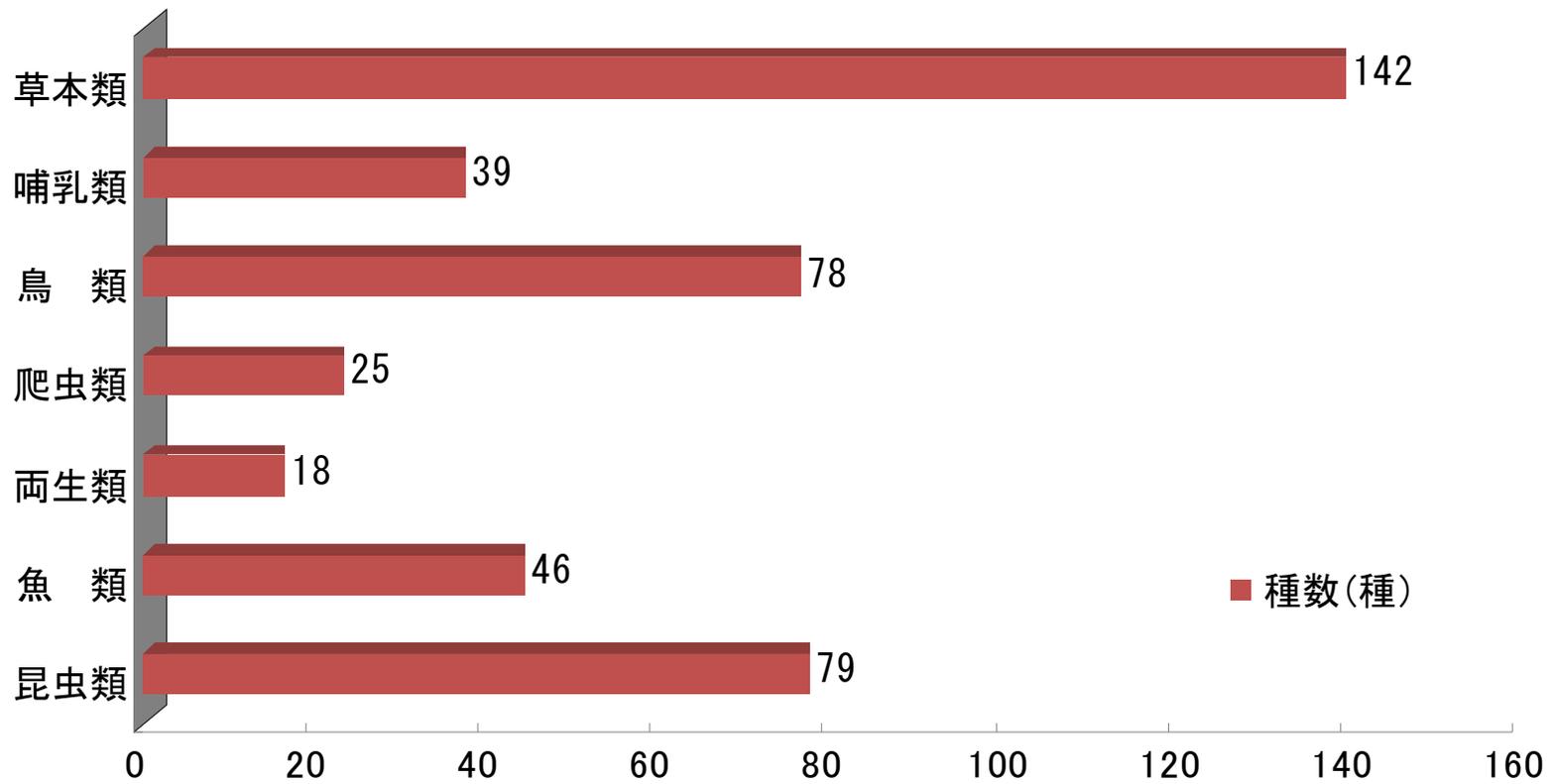
	種名	指定都道府県数	回答数(件)	当該都道府県指定状況 統一カテゴリー	環境省カテゴリー
木本	ウバメガシ	5	1	絶滅危惧Ⅱ類	
	ウリノキ	2	1	準絶滅危惧種	
	シデコブシ	3	1		準絶滅危惧(NT)
		3	1	絶滅危惧Ⅱ類	
草本	イシモチソウ	21	1	その他	準絶滅危惧(NT)
	エビネ	47	1	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧(NT)
			1	絶滅危惧Ⅰ類	
	カタクリ	17	1	準絶滅危惧種	
	キキョウ	44	1	準絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			1	絶滅危惧Ⅰ類	
	キンラン	45	1	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
			2	絶滅危惧Ⅰ類	
			2	絶滅危惧Ⅰ類	
			1	絶滅危惧Ⅱ類	
			3	絶滅危惧Ⅱ類	
			1	絶滅危惧Ⅱ類	
	ギンラン	35	1	絶滅危惧Ⅰ類	
			2	絶滅危惧Ⅱ類	
			4	準絶滅危惧種	
			1	絶滅危惧Ⅱ類	
			1	絶滅危惧Ⅱ類	
	クマガイソウ	46	1	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	クリンソウ	21	1	絶滅危惧Ⅰ類	
	サイハイラン	8	2	準絶滅危惧種	
	サギソウ	43	1	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧(NT)
	ササユリ	12	4	準絶滅危惧種	
			1	準絶滅危惧種	
	シラタマホシクサ	4	1	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	チョウジソウ	36	1	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧(NT)
	ナンバンギセル	9	1	絶滅危惧Ⅱ類	
	ハギクソウ	2	1	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類(CR)
ハマボウ	19	1	絶滅危惧Ⅱ類		
ハンゲショウ	25	1	絶滅危惧Ⅱ類		
マツムシソウ	31	1	準絶滅危惧種		
		1	絶滅危惧Ⅰ類		
マメナシ	5	1	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類(EN)	
ミズドクサ	3	1	絶滅危惧Ⅱ類		
ヤマユリ	8	2	準絶滅危惧種		
		1	準絶滅危惧種		
合計	24	53		11	

GCで確認している絶滅危惧種等の動物は、都道府県指定を含め、哺乳類8種、鳥類15種、爬虫類2種、両生類6種、魚類3種、昆虫類6種、無脊椎動物2種の合計42種。

環境省指定は、絶滅危惧 I A類(CR)1、I B類(EN)3、II類(VU)20、準絶滅危惧種(NT)11の合計35種。

(23都道府県、84GCの回答)

GCの敷地内で確認している生きもの（複数回答）



## G Cで確認された生きもの上位20種類（複数回答）

### [草本類]

No.	種類名	回答数（件）
1	スズメノカタビラ	126
2	メヒシバ	82
3	タンポポ	64
4	チドメグサ	59
5	ヤハズソウ	54
6	チガヤ	52
7	ヒメクグ	48
8	シロツメクサ	39
9	ススキ	33
10	オオバコ	29
11	メリケンカルカヤ	28
12	カヤツリグサ	23
13	スミレ	21
14	クズ	20
15	スズメノヒエ	18
16	ハマスゲ	18
17	セイタカアワダチソウ	15
18	ヨモギ	15
19	ツユクサ	14
20	ネジバナ	12

### [鳥類]

種類名	回答数（件）
キジ	258
トビ	112
スズメ	103
ウグイス	62
メジロ	54
ムクドリ	52
キジバト（ヤマバト）	51
ツバメ	48
アオサギ	32
ヤマドリ	29
カワセミ	26
コジュケイ	26
ヒヨドリ	24
カワウ	22
シジュウカラ	15
フクロウ	15
オオタカ	13
カルガモ	12
ヒバリ	10
ヤマガラ	10

### [昆虫類]

種類名	回答数（件）
カブトムシ	127
オニヤンマ	88
コガネムシ	59
アゲハ	49
モンシロチョウ	49
シオカラトンボ	41
アキアカネ	27
ギンヤンマ	27
スズメバチ	13
ケラ	12
オオムラサキ	11
キアゲハ	7
テントウムシ	6
カナブン	5
ミヤマクワガタ	5
アオスジアゲハ	5
カラスアゲハ	5
クロアゲハ	5
アブラゼミ	4
チョウトンボ	4

## GCのアセスメントによる動植物への対応(19GC)

□植物の保全5件(ミズドクサの保護、カート道路の線形変更による樹木維持など)

□昆虫類の保全1件(トンボ生息場所を移設)

□鳥類の保全5件(オオタカ、ツバメの営巣保全など)

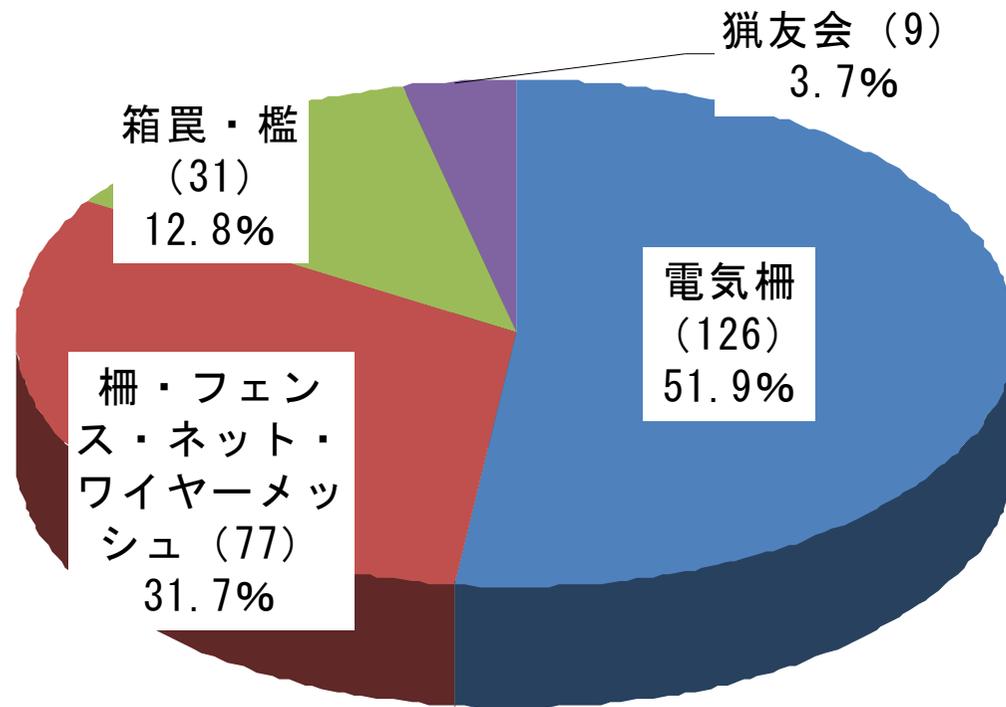
□両生類の保全1件(サンショウウオの保護)

□生息地の保全7件(敷地内に自然保護環境区域を設置、調整池の水質浄化など)

## GCの動植物の目録(リスト)作成

- 植物リスト6件
- 木本類リスト6件(樹木台帳、花木やサクラ類リストなど)
- 木本類・鳥類リスト1件
- 鳥類リスト1件
- 動植物リスト5件(リスト掲載種の継続調査など)
- その他5件(コガネムシ類の標本作成、自治体との環境保全協定による資料など)

### GC獣害対策の内訳（複数回答）



およそ9割近く(86.9%)のGCはイノシシ、シカ、モグラなどの被害がある。

内容	件数(件)
下草刈り	5
草本植栽(食餌植物の植栽など)	3
木本植栽(実のなる樹木植栽、マツ枯れ後に広葉樹植栽など)	18
植物の保全(ヤマユリ、ハンゲショウなど)	5
樹木の保全(イタジイ、ミツバツツジなど)	4
樹林地の保全(林床保全など)	3
昆虫類の保全(ホタル)	1
餌台設置(野鳥、カモ、リスなど)	8
巣箱設置(グリーンまでの距離標示として巣箱を活用、ツバメの巣台など)	27
鳥類の保全(キジ生息地の下草刈込みを控える、キツツキのねぐら用巣穴・ヒバリ営巣を維持など)	9
動物の保全(モモンガ)	1
生息地の保全(自然保護区域の設定、湿地帯の保全、魚の住みか用の筏設置、メダカの隠れ家となる水草植栽など)	16

## GCの動植物の生息地維持管理

## GCの動植物モニタリング

- トンボソウ(トンボソウ属)のモニタリング
- 草原性植物の植生調査
- ヒヨリガモ(渡り鳥)の生態観察(糞害対策)
- カワウの個体数調査

<input type="checkbox"/> 外来種(動植物)を調査(12GC)
<p>特定外来生物の指定動物: アライグマ、クリハラリス(台湾リス)(2件)、ハリネズミ、ブルーギルの4種</p> <p>特定外来生物の指定植物: オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナルトサワギクの3種</p> <p>要注意外来生物の指定植物: セイタカアワダチソウ(2件)、セイヨウタンポポ(外来タンポポ種群)、メリケンカルカヤの3種</p> <p>※ハクビシンは外来種か在来種か未断定。</p>
<input type="checkbox"/> 外来種を駆除(21GC)
<p>特定外来生物の指定動物: アライグマ(7件)、ウシガエル、ヌートリア(3件)の3種</p> <p>同指定植物: アゾラ・クリスタータ(<i>Azolla cristata</i>)1種</p> <p>要注意外来生物の指定動物: アカミミガメ/亜種ミシシippアカミミガ1種</p> <p>同指定植物: セイタカアワダチソウ(6件)、セイヨウタンポポ、メリケンカルカヤの3種</p> <p>加えて、ハクビシン(3件)</p> <p>シバオサゾウムシ/2件(「我が国に定着している外来生物(昆虫類)のリスト(暫定版)」、環境省、掲載種)</p>
<input type="checkbox"/> 外来種を調査・駆除(4GC)
<p>特定外来生物の指定動物: オオクチバス(通称ブラックバス)1種、指定植物: ナルトサワギク、セイタカアワダチソウの2種</p> <p>「我が国に定着している外来生物(昆虫類)のリスト」掲載のシバツトガ1種</p>
<input type="checkbox"/> 取引業者に外来種持ち込み防止への協力を呼び掛け(1件)

## GCの外来種管理

## GCホームページによるコースで見られる動植物紹介

- 草本類5件（シュロガヤツリ、ネジバナ、山野草など）
- 木本類20件（花木、サクラ類・13件など）
- 植物5件
- 昆虫類5件（オオムラサキ・3件、カブトムシなど）
- 両生類1件（モリアオガエル）
- 鳥類5件（キジ、ツバメ、ハクチョウなど）
- 哺乳類11件（シカ、ニホンカモシカ、リスなど）
- 生物多様性を保全する旨の看板設置1件

## GCホームページへの環境保全に関する宣言、指針、計画などの掲載

- チャレンジ25キャンペーン(環境省による地球温暖化をとめる「6つのチャレンジ」を企業や個人が実践)
- ISO14001(環境管理)の取得・3件
- エコ活動(ペットボトルキャップ回収、割りばしを使わない)
- 芝生の低農薬管理・3件
- 地域に自生する樹木による景観づくり
- 「クロマツの森宣言2011」
- 滋賀県支配人会の「滋賀県ゴルフ環境宣言」

## シーガイア 黒松の森宣言 2011

一ツ葉海岸にある黒松の森は200年前住民の暮らしを守るために植栽されました。

南北11km、幅1kmに広がる100万本以上の松は、  
強風や潮害を防ぐだけでなく私たちに安らぎと癒しをもたらしています。

環境の変化により日本中で松林が衰退するなか、一ツ葉海岸の黒松の森は  
美しい緑のまま保たれています。この森に関わる人々が長い歴史の中で世代を超えて、  
こまやかに手入れしてきた証です。松林は人が入れれば入るほど守られ、育っていきます。

私たちは、この黒松の森を、宮崎県の、そして日本のかげがえのない財産として  
守り、はぐくみ、次の世代に引き継ぎます。

黒松の森に足を踏み入れ、五感で愉しむ。  
フェニックス・シーガイア・リゾートは、これからも黒松の森と  
共生するリゾートであり続けることをここに宣言します。

2011年3月1日  
フェニックス・シーガイア・リゾート  
スタッフ一同

# 滋賀ゴルフ環境宣言

ゴルフを通じ、私たちはフェアプレイ精神に代表されるマナーやエチケットを学びます。そして琵琶湖を中心とする滋賀の自然がゴルフを支え、ゴルフ場でのプレイを豊かにすることに感謝します。このたび、私たちはこの思いを広げ、滋賀の生物多様性の保全に努め、地域社会の持続的発展に貢献することを期し、以下の4項目を展開することを宣言します。

1. 私たちは、ゴルフを通じて醸成されたフェアプレイ精神に代表されるマナーやエチケットが、生物多様性に対しても尊重されることが大切であることを心に銘じます。
2. 私たちは、ゴルフ場における生物多様性の現状を認識し、その保全・再生に取り組むため、地域社会と連携して生物多様性に関わる知識・情報を共有します。
3. 私たちは、多様ないのちと共生できるゴルフ場のあるべき姿を求めて研究に取り組み、関連産業において新技術の開発が促進されるよう、連携ならびに情報交流を進めます。
4. 私たちは、生物多様性の保全・再生をめざすゴルフ場づくりへのご理解・ご支援をいただくため、地域社会への積極的な情報発信に努めます。

以上

2011年3月25日

滋賀県ゴルフ連盟  
滋賀県ゴルフ場支配人会  
滋賀経済同友会

会長 平田 昭三  
会長 川口 秀三  
代表幹事 大道 良夫  
代表幹事 桂 賢



# GCの花見、ホタル観賞会

- 祭3件(ブドウ収穫祭、納涼祭など)
- 地域開放12件(老人会、小学校、初日の出鑑賞、ウォーキングなど)
- 花見35件
- 食事会3件(イモ煮、ランチバイキング、テラスディナー)
- ホタル鑑賞会4件
- 花火大会4件
- 月見4件
- その他9件(ブラックバス釣り、紅葉狩り、NPOの樹木調査、植物観察会、里山活動、温泉利用など)

# GCの子どもたちなどへのコース開放

- ウオーキング3件
- レクリエーション30件
- スポーツ大会3件(クロスカントリー、小学校マラソン大会・2件)
- 小学生ゴルフ体験3件(地元小学校など)
- グランドゴルフ2件
- スナッグゴルフ11件
- ターゲットバードゴルフ1件
- ジュニアゴルフ教室17件(小中学生、中高生ゴルフ部など)
- その他13件(トーナメント見学、高校体育授業、中学校授業、マラソン練習、水生生物調査、自然観察会、星空観察会など)

## GCのイベント運営、コース管理などのボランティア

□競技会15件

□祭2件

□コース清掃5件

□ディボット埋め20件(目砂同好会、目砂ボランティア隊、目土会、友の会などボランティア組織を編成)

□キャディ2件

□その他11件(音楽コンサートへの学生参加、ブドウの収穫、メンバーによるコースの修復、トライやる・ウィークへの協力)。ジュニア育成という観点から、小中高校生受け入れ10件、職場体験受け入れ9件。

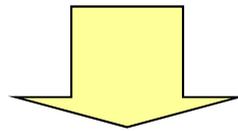
## 校庭(園庭)芝生化へのグリーンキーパー対応

- 芝植栽11件(園庭・校庭、老人ホームの張り芝、グラウンドのウインターオーバーシードなど)
- 芝管理17件(幼稚園・小中学校の校庭、指定管理者など業務として園庭・校庭・グラウンド・公園など)
- 指導・助言18件(幼稚園・小学校の校庭、県内キーパー会で各ゴルフ場近くの園庭を担当、地元のサッカー・野球場など)
- その他3件(コース改造時の芝を無償提供、中古芝刈り機を無償提供など)

# GCの自治体との防災協定

- 防災協定締結14件
- 防災協定検討中2件
- 臨時ヘリポート指定8件
- 広域避難場所6件
- 一時避難場所14件
- その他7件

前回調査（「ゴルフ場の生物多様性と重要木等の調査」、平成20年10月）の回答率18.3%を今回は4.2ポイント上回る。



ゴルフ場の経営者、支配人の皆様の環境意識、生きものへの関心度が高まっている。

「ゴルフをみんなのスポーツへ」を掲げているゴルフ界は、ゴルフ場が環境を保全し、生きもののお良好な生息地を維持、提供できる潜在力を、積極的に社会に向け発信する努力が大切となる。

## 2. 課題と対応

- GCは総敷地面積の47%を占める非プレーエリア面積を有し、この内訳、特徴、周辺の土地利用を把握し、良好な生息地とする方法を検討する。
- GCは総敷地面積の38%に相当する樹林地面積があり、この管理方法や良好な生息地とする方法を検討する。
- GCのマツ枯れ被害は、微害レベルとはいえ、被害木処理や予防対策をまったく行っていないGCもあり、常に被害拡大の危険に晒されているので、マツ枯れ対策を徹底する。
- 絶滅危惧種等の動植物は、およそ6割程のGCで確認されているものの、相当数の種が見つかると考えられるため、詳細な調査を検討する。

# 今後の対応

- 樹木・樹林管理は、「ゴルフ場の樹木管理セミナー」において、具体的な対策を示す。
- 生きもの、地域交流に関しては、「生きものの里山をめざすゴルフ場ガイドライン」を活用し、具体的な取り組みを促す。
- 日本ゴルフサミット会議構成団体による、「生物多様性を保全するゴルフ場宣言～ゴルフ場は生きものの里山」(平成23年12月)を各ゴルフ場が採択し公表することを促す。

### 3. ゴルフ場と環境をめぐる海外の動向

米国のGC総数は、2005年16,052コースから2011年15,751コースへわずかに縮小、ゴルフ経済の規模は、2005年759億ドル(約8兆3,600億円)から2011年には688億ドル(約5兆4,900億円)へ低減。

この経済情勢の中、近年、欧米のゴルフ界では、“ゴルフと環境”が大きな課題として強く認識。

国際ゴルフ連盟(IGF)は、“サステナビリティ声明”  
(2012年10月)を公表

- ①競技のために;財政状況の改善と強化
- ②ゴルファーのために;プレー環境の質、価値、挑戦および経験に報いる
- ③環境のために;資源の保全および生物多様性の増進
- ④コミュニティのために;雇用、レクリエーションのための緑地空間、教育機会。

# GOLF 20/20

- ①地元コミュニティに生態的、経済的な利益をもたらす。
- ②野生生物の生息地を提供し植物種を保護する。
- ③重要な緑地空間の利益を提供する。
- ④自然資源を効率的に利用する。
- ⑤GCの管理にあたり隣接する土地利用を尊重する。
- ⑥環境責任原則についてゴルファーとディベロッパーを教育し、環境的に健全なGCの価値を促進する。

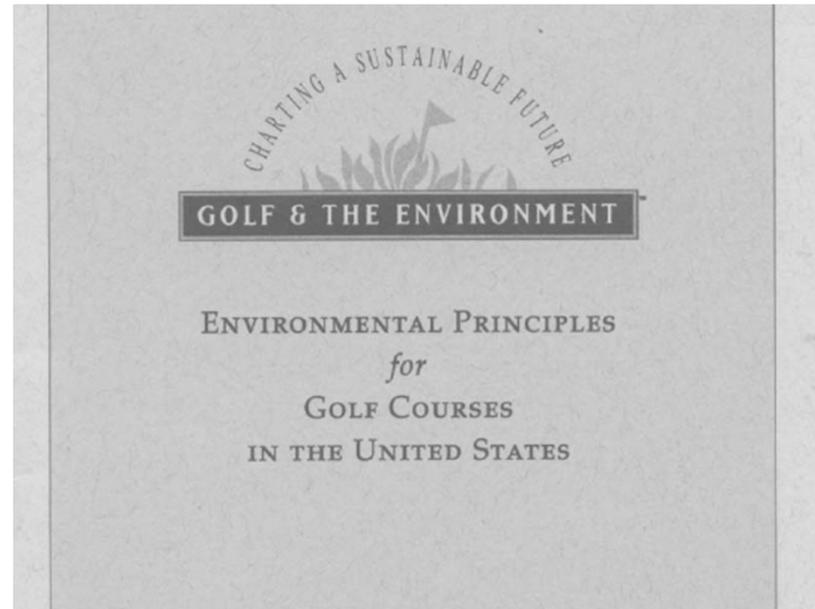
国際自然保護連盟 (IUCN)

国連持続可能な開発会議 (リオ+20、2012年6月)



GCがいかに重要な役割を演じているかについて、スウェーデンの湿地にあるLjunghusens Golf Clubを例に報告。

ゴルフと環境のテーマは、「米国におけるゴルフコース環境原則」(1996年)に見解がまとめられた



原則は、米国ゴルフコース・スーパーインテンドント協会(GCSAA)、全国ゴルフ連盟(NGF)、全国野生生物連盟(NWF)、米国環境保護庁(USEPA)、米国ゴルフ協会USGA)、他15組織により提唱・公表。

## 「ゴルフ場のサステナビリティー位置付け、価値、利益ー入門」



### Alpine Country Clubの環境政策 「野生生物と生息地管理」

- a. グリーンベルトを連続させる
- b. ポリネーターを惹きつける多年草を利用
- c. 外辺部は自然な感じに、自生の植生を用いる
- d. 池の周囲にはバッファエリアを配置する

ニュージーランド「ゴルフコース環境経営調査」(2011年)

□ GCが環境に責任のある態度で運営に  
当たる:重要である(38%)、非常に重要で  
ある(11%)

□ 60GCには合計2,700haの“非管理ター  
フ”(刈り込みが1年に3回未満の面積)が  
存在、250GC全体では11,250ha

今や、ゴルフ場は全体としてサステナビリティを実践し、野生生物に配慮できる十分な空間を維持していることが、世界のゴルフ場において自明の理となっている時代といえる。